

論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨

学位申請者氏名： 坂本 保子

学位の種類：博士（保健福祉学）

学位記番号：博（健）甲第22号

学位授与年月日：令和2年3月4日

指導教員：高崎健康福祉大学教授 上原徹

審査委員：主査 高崎健康福祉大学教授
高崎健康福祉大学教授
高崎健康福祉大学教授

千葉 千恵美
安達 正嗣
永田 理香

論文題目

子育て知識・行動に関する世代間差異の実態と母親の精神健康度や心理社会因子との相互関係に関する横断研究

A cross-sectional study of the mutual relationships among intergenerational differences in child-rearing knowledge and behaviors, maternal mental health and psychosocial factors

【論文の内容の要旨】

現在の子育て環境は、時代変遷とともに大きく変容している。子育ての手段や方法のみならず、家族や社会のあり方も変化している。第1章では子育てに関する世代間差異について概観し、特に栄養（授乳）と清潔（沐浴）には社会文化背景が強く関係していること、幼少期に受けた養育体験は母親としての子育てに再現される世代間伝達仮説、子育て支援のキーパーソンやロールモデルとして実母の役割が大きいこと、子育て中の母親が母世代から受けるさまざまな心理社会的影響について論じた。これらを理論根拠とし、本論ではまず多数の経産婦を対象に子育て知識・行動について栄養と清潔に焦点を当てた世代間差異の実態やその特徴を明らかにし、被養育体験と子育てにかかわる心理社会因子との関連について検討した。これらの結果を踏まえ、現在妊娠している初妊婦とその実母を対象とし、子育て知識・行動に関する知識・行動について実母世代との差異の実態を分析した。さらにこうした世代間差異や実母との関係性・母親役割の獲得と、初妊婦の精神的健康度との相互関係について明らかにすることを研究目的とした。

第1研究では、子育てに関する知識・行動について、特に時代背景が強く影響することが推測される栄養方法と清潔方法に着目し、子育て経験者への実態調査を行った。高度経済成長期を経験した1955～1973年生（266名・高度成長世代）と、それ以後の生活環境・保健水準の向上がみられた1974～1995年生（238名・それ以降世代）を対象を分類して比較検討した。その結果、高度成長世代群に比べそれ以降世代は有意に高い家族内サポートを受けており、授乳方法の知識について世代間差異を認識していることが示唆された。既知の子育て行動では、高度成長世代はそれ以降世代に比べ有意に「沐浴」の比率が高かった。それ以降世代は高度成長世代に比して、市販の離乳食品の使用率が有意に高かった。清潔方法で世代間に有意な差異が認められたのは、沐浴に使用した物品や洗浄剤、沐浴後

マ友、助産師、祖母がそれ以降世代で有意に高率であった。子育て行動に世代間差異があると感じる割合は90%以上と高率で、いずれの世代も違いを認識していた。子育て知識行動の世代間差異には、女性の社会進出など社会文化の時代的变化の影響が考えられた。

第2研究では、経産婦336名における子育てに関わる心理社会的状況と、自身が母親からうけた養育体験との関連を検討した。その結果、子育て認識の世代間差異、子育て負担感、家庭内サポートレベル、子育てに関わる心理行動の一部に、被養育体験（愛情愛着・心理的自立の否定・行動の自由の促進）が関係していることが示唆された。子育て負担感と子育て認識の世代間差異に直接影響する変数を多変量解析により検討した結果、子育てに関わる身体疲労や能力不安、意欲低下、充実度低下、知識の必要性が乏しいと、育児負担感が高まることが示された。この結果から、母親から受けた被養育体験と自身の子育てに関わる負担感や世代間差異意識との関連性は間接的なものであることが示唆された。

第1研究では多数の経産婦を対象に経験した子育て知識行動を比較したが、実際に子育てを迎える初妊婦と実母との間に存在する世代間差異は妊婦の精神的健康に重要な影響を与えると考えた。そこで第3研究では、初妊婦とその実母との間で栄養方法・清潔方法・教え伝えたい子育て行動について比較分析し、子育て知識行動の「母子世代間差異」の実態を明らかにすることを目指した。また初妊婦とその実母との関係性が、精神的健康度（育児ストレス）や子育て知識行動の世代間差異、子育て負担感とどのような相互関連性を有するか検討するため、ローリスクの初妊婦（19歳～34歳）28名とその実母28名の計56名を対象に、自記式質問紙調査を行った。その結果、子育て知識行動で初妊婦と実母との比較により唯一有意差が認められたのは実施したい（実施した）栄養方法であり、初妊婦で人工栄養の比率は0%であった。実母との関係性に関連する因子では、初妊婦で妊娠週数が進むほど「実母からの自立性」が高まり、一方で「妊娠期適応」は妊娠期初期で高まることが示唆された。「妊娠期適応」は世代間差異がない群で、「実母からの自立性」は困りごとのない群で、それぞれ有意に高かった。また配偶者がいない妊婦は「実母との親密性」が高く、「妊娠期適応」が低かった。一方「実母からの自立性」は実母年齢が低い群で、「実母を介した母親像のモデル探求」は実母に配偶者のない群で有意に高かった。最後にGHQ28で評価された精神的健康度と関連する因子を検討した結果、初妊婦では世代間差異意識を強く感じるほど有意に「社会的活動障害」が高く、世代間差異の解消に向けた様々な施策や支援が妊婦の対人関係や社会的活動の促進に良い影響を与えると考えられた。また初妊婦では「実母からの自立性」が高い初妊婦ほど、「不安と不眠」、「社会的活動障害」、「うつ傾向」が強いこと、さらに「妊娠適応能力」が高い初妊婦ほど「不安と不眠」、「社会的活動障害」が生じにくいことが示された。この時期の妊娠適応に関する介入が、初妊婦の精神的健康度を高める可能性が示唆された。また実母との程よい依存関係の維持や適度な距離感が、初妊婦の育児ストレス軽減に肯定的な影響を与えることが示唆された。これらの結果を生かし、今後地域社会で様々な世代の母子や家族が健康的な子育てを実現できるような心理社会的サポートを提案していきたいと、申請者は結論づけている。

【論文審査の結果の要旨】

本研究は大きく 2 つの研究に分かれており、まず子育て知識行動の世代間差異に着目して全国 504 名の女性を対象に多数例調査を行い、栄養と清潔に関する世代間による違いや子育て情報取得の方法、子育てサポート、子育て負担感、子育て知識の必要性、自身の被養育体験など関連する心理社会因子について関連性を検討している。その結果、授乳や沐浴に関する世代間の差違が認められるとともに、子育て行動に世代間差異を感じている女性が世代関係なく高率で、女性の社会進出など社会文化の時代変化が影響する可能性に言及している。また、子育てに関わる身体疲労や能力不安、意欲低下、充実度低下、知識の必要性が乏しいと、育児負担感が高まることも示された。

この結果を受けて、比較的小人数ではあるものの現在妊娠している初妊婦とその実母を対象に、両者の子育て知識行動にかかわる世代間差異の実態分析と初妊婦の精神的健康度との関連、さらには実母との関係性も包含した検討を加えている。興味深いのは、世代間差異意識を強く感じる初妊婦ほど社会的活動障害が高く、世代間差異の解消に向けた支援が妊婦の社会的活動の促進に寄与する可能性を提示したことである。また「実母からの自立性」が高い初妊婦ほど、精神的健康度が全般的に低く、「妊娠適応能力」が高い初妊婦ほど不眠不安や社会的活動障害が生じにくいという知見である。実母との関係性が妊婦のメンタルヘルスに与える影響の一端を明らかにした点は、高く評価される。

これらの研究方法には大きな問題はなく、結果の解釈も妥当である。母子保健領域では、一定の成果をあげた研究と言える。

1月23日午後13時から、学位申請者による本論文内容のプレゼンテーション及び3名の審査委員（安達先生、永田先生、千葉）による質疑が最終試験を兼ねて2時間に渡る審議が行われた。そこでは現在妊娠している初妊婦とその実母を対象とした子育て知識・行動に関して、実母世代との差異の実態を分析した研究の結果が示された。子育て中の母親が母世代から受ける様々な心理社会的影響があり、実母との関係性が妊婦のメンタルヘルスに与える影響の一端を明確にしたこの研究は高い評価となった。

特に栄養（授乳）と清潔（沐浴）に着目し、社会文化背景の関係性や幼少期に受けた養育体験が母親の子育てに再現される世代間伝達となり、子育て支援のキーパーソンやロールモデルを示し、世代間差異の中で実母と初妊婦の関係性に特化した母親役割の獲得には、実母と関係性が重要であることや、初妊婦の精神的健康度の相互関係を明らかにした事は大きな成果となった。一方で今後の初産婦と実母の展開に向け、地域の関連性を含めた専門職の対応や他の家族の関係性が議論になった。同時に対象者の年齢区分を社会背景に添った記載方法の工夫や最近国が示した新しい制度内容を考察に加える等の指摘もなされた。

最終報告会ではこうした点に加え、初妊婦とその実母の子育て知識行動に関わる世代間差異の実態分析と初妊婦の精神的健康度の関連を更に縦断的に続けていく事が今後必要であることが示された。

以上により、論文審査および最終試験の結果に基づき、審査委員会において慎重に審査した結果、本論文が博士（保健福祉学）の学位に十分値するものであると判断した。